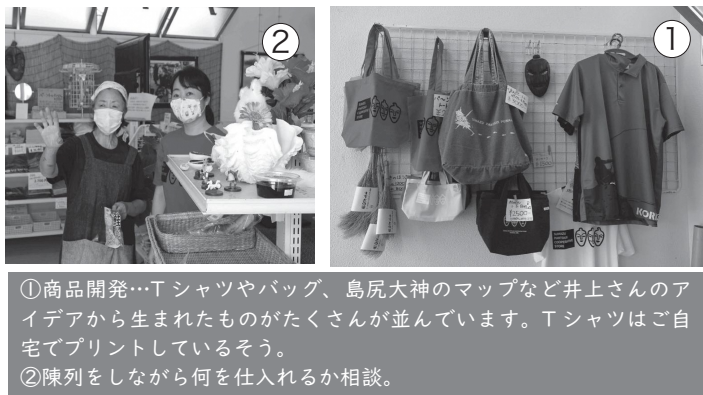




①商品開発…Tシャツやバッグ、島尻大神のマップなど井上さんのアイデアから生まれたものがたくさん並んでいます。Tシャツはご自宅でプリントしているそう。
②陳列をしながら何を仕入れるか相談。

お昼時になると、店内はお弁当を買いに来る人、ほっと一息つきにくる人々にぎわいます。

着任当時、最初の課題は購買店の売上を伸ばすことでした。そこで井上さんたちは、購買店の魅力アップと観光客へのPR強化に乗り出しました。経営委託している会社の方々や自治会、住民の方々と協力しあい、店のレイアウトや食堂のメニューを考えたり、チラシを作ってホテルに営業をしたり、SNSでの情報発信など様々な取組をしました。これにより、これまで厳しい状況にあった購買店の運営は一転し、昨年度は黒字となりました。



地域のよさをそのままに
未来へつなげたい

井上 歩美さん

井上さんの担当区は、島尻と大神の2箇所。島尻地区では、購買店を中心に活動しています。

より魅力的な購買店へ

もう一つの担当地である大神島では、島のルールづくり（大神島憲章）や猫の繁殖問題について自治会と一緒に取り組んでいます。

「宮古が大好きで移住した私だからこそ気づくことがあると思うんです。そんな私と宮古島の皆さんで協力したらきっと何か面白いものが生まれるはず、私が初めて来島したときに感動した、のんびりして素朴で美しい宮古島の印象を残すお手伝いをしたい」と思い、地域おこし協力隊に応募しました。

目標は、地域の皆さんが地域にすることが楽しい、居心地がいいと笑顔で生活し続けられること、その地域に残る自然や文化、素朴さが未来に続いていくこと。簡単なことではありませんが、叶えたい目標です」

井上さんの想い

島尻パーントウ購買店 FB
https://m.facebook.com/島尻パーントウ購買店
-519431285250941miyakojima/
Instagram
https://www.instagram.com/385cok_ayumi/



笑顔いっぱい井上さんと購買店の皆さん



未来へつなごう、シマの宝。



「地域おこし協力隊」 ってなに？

地方自治体が都市地域からの移住者を『地域おこし協力隊員』として任命し、農業・漁業への従事、地域の魅力PR、お祭りやイベントの運営など、様々な地域協力活動を行いながらその地域への定住・定着を図る総務省の取り組みです。

平成30年度は5千人以上の方が活動し、任期終了後も地域に定住している方が大勢いらっしゃる。

映像を使ってPRする人、前職のノウハウを活かして活動する人など、それぞれが自分の特技や地域の特徴を活かして日々活動されています。

宮古島市は、市街地以外の多くの地域で少子化・高齢化が進み、さまざまな地域課題を抱えています。

そのため、「魅力を感じることができまちなちづくり」に向けて、地域づくりに意欲がある地域を応援するために、地域の「そと」の視点から地域の方と一緒に課題解消に取り組むために、現在宮古島市では「地域おこし協力隊」の方を3名任命しています。

今月号は、宮古島市で頑張っている地域おこし協力隊員の井上歩美さんと神林琢さんをご紹介します。



▲大神憲章づくり…大神島の皆さんが暮らし続けるために、みんなの意見をまとめます。



①昨年9月から店内に「パーントウ食堂」ができました。壁や床には島尻パーントウの泥がついています。②レジ近くの椅子。お客さんが座っておしゃべりします。

井上 歩美さん

所属地域：島尻・大神
着任年月：2018年11月～
出身：兵庫県
【活動概要】島尻・大神地域の売店「島尻パーントウ購買店」を拠点とした地域活性化につながる取組みの企画立案・仕組みづくり



神林 琢さん

所属地域：友利
着任年月：2018年11月～
出身：神奈川県
【活動概要】「郊外型エコハウス」を拠点に持続的な地域活性化につながる取組みの企画立案・仕組みづくり

